

平成19年度
21世紀土地改良区創造運動
北海道大賞

受賞地区の概要

～新たな水土里ネットの創造～

- 道民・国民が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織
- 道民・国民の要請に対応した農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織を目指して



平成19年8月29日

水土里ネット北海道
北海道土地改良事業団体連合会

はじめに

平成13年度にはじまった21世紀土地改良区創造運動（以下「21創造運動」）は今年度で7年目に入り、全道的な広がりが見られるようになりました。

平成14年度には土地改良区の愛称「水土里ネット」が決定し、以降、この愛称の普及を含めた多様な運動が全国的に展開されております。

また、平成15年度には、全国水土里ネットにおいて、全国の模範となる優れた運動や示唆に富む運動を展開している水土里ネットを表彰する「21創造運動大賞」が創設されました。

このような中で、本会は、21創造運動を一層推進する支援体制の強化を図るため、「21創造運動表彰選考委員会」を設け、平成16年度から「21創造運動北海道大賞」を選考しております。

現在、道内80水土里ネットの21創造運動の取り組みは多岐にわたっており、それぞれの地域の特性に応じた様々な活動が展開されております。

本年度の表彰選考委員会における北海道大賞の選考過程では、これらの活動について、都市と農村との交流や地域住民等と連携した地域づくり、学校教育との連携、先駆的な農業・農村振興活動、多様な広報の推進、運動の多様性と積極的な地域振興への貢献（成果）等が積極的に行われており、その運動の取組体制、意味性、継続性・発展性、運動の成果が選考のポイントとなりました。

21創造運動は、水土里ネットの役割・機能を再認識するなど自己確認、自己変革に取り組む（内部運動）とともに、農業・農村の多面的機能や農地・農業用水等の資源保全の重要性と水土里ネットの果たす役割などについて広く理解の醸成を図る（外部運動）ものであります。今後とも水土里ネットが、道民・国民が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織、また、農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織として発展するためには、これからも着実に継続して21創造運動に取り組んでいかなければなりません。

本会といたしましては、この表彰を通じ、関係者間の情報交換や道民・国民への広報の展開につなげ、さらなる運動の推進と新たな展開が図られるよう支援して参りたいと考えております。

水土里ネット北海道
北海道土地改良事業団体連合会 会長理事
21創造運動推進委員会 委員長
眞野 弘

目 次

I.	21創造運動北海道表彰について 1
	1. 21創造運動表彰の目的	
	2. 21創造運動表彰の選考経過等	
II.	21創造運動北海道大賞地区の概要	
	1. 水土里ネット ぬまた (沼田町土地改良区) 3
	(空知管内)	
	2. 水土里ネット くりやま (栗山土地改良区) 6
	(空知管内)	
	3. 水土里ネット 新十津川 (新十津川土地改良区) 9
	(空知管内)	
	4. 水土里ネット 富良野 (富良野土地改良区) 13
	(上川管内)	

I 21創造運動北海道表彰について

1. 21創造運動表彰の目的

「水」「土」「里」は食料の安定供給や農業・農村の多面的機能の発揮の基盤となる社会共通資本。道民・国民の財産であるこの「水」「土」「里」を良好な状態で次世代へ継承するため、水土里ネットでは、農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織、農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織を目指して、21創造運動を積極的に展開している。

このような中で、模範となる運動を展開している水土里ネットの表彰を通じ、活動に取り組む関係者間の情報交換や道民・国民への広報の展開につなげることにより、水土里ネット関係者の運動への取り組み意欲の高揚と意識改革を図るとともに、運動のさらなる発展と新たな展開に資する。

2. 21創造運動表彰の選考経過等

(1) 選考対象

21創造運動に積極的に取り組み、北海道の模範となる運動を行うか、又は、他の運動に対して示唆を与える運動を行っている水土里ネット。

(2) 選考方法

本会「21創造運動表彰選考委員会」が、道内80水土里ネットの取組状況を精査し、北海道大賞を選定する。

(3) 「21創造運動表彰選考委員会」委員の構成

委員長	梅田 安治	農村空間研究所長、北海道大学名誉教授
副委員長	浜田 哲	美瑛町長
委員	長澤 徹明	北海道大学大学院農学研究院教授
//	森 久美子	作家、エッセイスト
//	小田 たす子	消費生活コンサルタント
//	野城 正功	農政ジャーナリスト
//	大内 幸則	北海道開発局農業水産部調整官
//	坂井 秀利	北海道農政部農村振興局長

(4) 選考基準

水土里ネットが取り組む21創造運動において、愛称の普及、都市と農村との交流、地域住民等と連携した地域づくり、総合学習など学校教育と連携した活動、先駆的な農業・農村振興活動、環境・景観保全活動、多様な広報の推進、運動の多様性と地域振興への貢献（成果）等が積極的に行われており、その運動の取組体制、意味性、継続性・発展性、運動の成果において優れた活動が行われていること。

1) 運動の取組体制

- ①役職員、組合員が運動を推進する意志と姿勢を有し、運動に積極的に参加しているか。
- ②将来の21創造運動を担う後継者を育てるための取組み・工夫を行っているか。

2) 運動の意味性

- ①明確な基本理念を持って取り組んでいるか。
- ②歴史や先人等の想いが伝わる運動となっているか。
- ③運動が小規模でもきらりと光り、ユニークさや先駆性を持つ運動であるか。

3) 運動の継続性・発展性

- ①単発的な活動に終わるのではなく、持続的な(無理のない)運動として展開されているか。
- ②運動内容が徐々に発展・拡大しているか(「一步の踏み出し」)。
- ③運動が計画性(運動目標)を持って行なわれているか。
- ④多様なツールの活用による運動の成果が現れているか(当該水土里ネットの体力に応じた相当の結果が現れているか)。

4) 運動の成果

- ①他の組織等との多様かつ有機的な連携のもとに、外部にも開かれた運動が展開されているか。
- ②水土里ネット、施設、多面的機能等の役割や重要性について、地域住民の理解が深まっているか。
- ③運動が施設の管理や地域資源の保全強化につながっているか。
- ④運動を通じて水土里ネットの地域づくりの関わりが大きくなっているか。
- ⑤地区内で農地・水・環境保全向上対策が行われている場合、状況に応じた貢献を行っているか。
- ⑥運動を通じて地域農業の振興(農業生産額の増加、農家経営の安定向上、担い手の確保等)に貢献しているか。

(5) 選考経過

1) 第1回委員会

- 期　　日　　平成19年6月11日
- 選考内容
 - ・21創造運動北海道表彰の実施方針について審議。
 - ・21創造運動北海道表彰の選考基準等について審議。
 - ・道内全80水土里ネットの運動の活動内容について、①愛称普及②都市と農村の交流③関係団体・地域住民等との連携④学校教育との連携⑤先駆的な農業・農村振興活動⑥環境・景観保全活動⑦多様な広報⑧運動の多様性と地域振興への貢献(成果)等一の8項目に分類し、それぞれの項目に積極的に取り組んでいる18水土里ネット(過去に全国大賞を受賞した4水土里ネットを除く)を表彰候補として一次選考した。

2) 第2回委員会

- 期　　日　　平成19年7月9日

○選考内容　【北海道大賞の選考】

- ・第1回選考委員会の一次選考で選んだ18水土里ネットのうち過去に北海大賞を受賞した8水土里ネットを除く10水土里ネットの活動について、選考基準である①運動の取組体制②運動の意味性③運動の継続性・発展性④運動の成果について整理・検討し、特に優れた活動を展開している4水土里ネット(ぬまた、くりやま、新十津川、富良野)を北海道大賞に選定した。

【全国大賞推薦の選考】

- ・過去に北海道大賞を受賞した8水土里ネットと、今年度北海道大賞に選定した4水土里ネットの、計12水土里ネットの活動について、上記選考基準をもとに検討し、特に優れた活動を展開している水土里ネットとうまを全国大賞中央選考委員会(全国水土里ネット)へ推薦することとした。

II 21創造運動北海道大賞地区の概要

1. 水土里ネットぬまた（沼田町土地改良区）

(1) 水土里ネットの概要

- ②地区面積 3,696ha
- ③組合員数 251戸
- ④関係市町村 沼田町・北竜町
- ①役職員等数 総代35名、役員11名、職員10名

(2) 21創造運動の概要と受賞ポイント

21創造運動の取り組みは早く、平成14年には創造運動の活動を開始している。特に都市と農村の交流では、札幌の消費者グループと連携し、一般消費者や子供たちに施設見学や農業体験を通じて農業に対する理解を深めてもらっている。また、町主催の農業まつりに積極的に参加し、ホタルをはじめたんぼの生き物を展示紹介し子供たちに人気がある、同時にパネル展示を行い水土里ネット役割や施設の役割をPRしている。

地域住民との連携では、用水路沿いにハーブの植栽を行い景観美化に努めている。

学校教育との連携では、小学校の総合学習「たんぼの学校・田植え体験」に協力し、また小学校の社会見学に案内し、農業水利施設の役割や農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介している。用水路の多面的活用として、防火用水の活用、ホタルの生態系に配慮した水管理の取り組みを行っており、親水公園として地域住民の憩いの場となっている。

また、独自のPRパンフレットを作成し、町内に配布するなど、積極的な交流を通じて農業・農村の理解促進を図っている。

このように、地域が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織を目指し、組合員はもとより地域住民や学校、消費者団体、行政など多様かつ有機的な連携のもとで、外部にも開かれた継続的、持続的な運動が展開されている。

(3) 21創造運動の主な取組み

①都市と農村の交流

◇札幌の消費者団体を招き、施設見学、農業体験を開催

札幌市の消費者グループ「アグリション21」と、町、水土里ネット、JAが連携し、一般の消費者や子供たちに施設見学や草取りなどの農業体験を通じて農業に対する理解を深めてもらおうと、札幌市内の親子連れ80人で結成された「お米探検隊」を招き、農地・農業用水等の役割や、安全・安心な食料生産の取り組みなどを紹介している。



平成18年7月15日、16日(1泊2日)に行われた親子農業体験会。沼田ダムの見学や、低農薬有機栽培水田での除草体験のほか、夜は幌新ダムのキャンプ場で夕食をとったあと、ホタルの観察会も行われた。

◇地域イベントへの参加

町などが主催する地域のイベントに積極的に参加し、パネルで農業用水の多面的機能、農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介するほか、パンフレット、ティッシュなどを配布し、水土里ネットの役割などをPRしている。



平成18年8月19日に行われた沼田町農業祭りで、田んぼに生き物などを紹介。

②関係団体・地域住民等との連携

◇用水路沿いのハーブ植栽

水田の害虫カメムシ防除や、景観美化の一環として、組合員や地域住民等の協力を得て、用水路敷地等にハーブを植栽している。



組合員や地域住民など20名が参加して行われたハーブの植栽(9月21日)

◇農業用水の多面的機能発揮に向けた取組（消防署との連携）

農業用水の防火用水機能増進を図るため、地区内の用排水路や畠地かんがい給水栓等の位置図を消防署に提供し、対処できる箇所の増加に向けて協議を進めているほか、防火訓練等にも活用している。

③学校教育との連携

◇小学校の総合学習「田んぼの学校・田植え体験」に協力

沼田町立沼田小学校の総合学習「田植え体験」に協力し、農業体験を通じて、農地や農業用水等の重要性と、これらを管理している水土里ネットの役割等を紹介している。



平成18年5月18日に行われた田植え体験

◇小学校の社会科見学に協力

深川市内の3つの小学校の生徒及び父母の社会科見学に協力。子どもたちをダムや頭首工に案内し、農業水利施設の役割や農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介している。



④先駆的な農業振興活動

◇用水路の多面的活用

農村部を流れる用水路を活用し、地域住民の防火の初期に役立っている



◇ホタルの生態系に配慮した水管理の取組

ホタルが生息する農業用水を活用した親水公園の水管理で、生態系に配慮した水管理を行っている。

⑤環境・景観保全活動

◇用水路沿いのハーブ植栽 ※再掲

◇農業用水を活用した親水公園の整備

町と連携を図りながら、農業用水を活用した親水公園を整備し、地域住民の憩いの場の創出を進めている。



◇用水路敷地の遊歩道等の整備推進

用水路の埋設化等による安全整備と併せ、遊歩道、公園等の整備を進めている。

⑥多様な広報等

◇農業用水、水土里ネット等のPRパンフの作成・配布



⑦運動の成果等

・パネル展等を通じて、水土里ネット・施設・多面的機能の役割や重要性が、地域住民に理解されている。また、農地・水・環境保全向上対策に貢献している。



2. 水土里ネットくりやま（栗山土地改良区）

(1) 水土里ネットの概要

- ②地区面積 3,427ha
- ③組合員数 416戸
- ④関係市町村 栗山町、由仁町
- ①役職員等数 総代30名、役員10名、職員11名

(2) 21創造運動の概要と受賞ポイント

都市と農村の交流として、くりやま夏祭りに参加しパネル展等で農業用水の多面的機能や農地・農業用水等の資源保全の重要性を紹介し、水土里ネットの役割等をPRしている。また、大正14年に建造された「南学田揚水機場」の歴史的価値を評価し、伝承保存活動に取り組んでいる。

農業試験場と連携し「ウォーターリフォーム会」を組織し、ヨシを使った排水路の水質浄化試験を継続的に行い、ビオトープ空間の保全、多面的活用、子供たちと連携した動植物の生息調査など生態系保全の取り組みを行っている。そのほかに小学校のたんぽの学校や施設見学会、多面的機能の発揮に向けた取り組みとして、消防署と連携した防火用水や防火訓練への利用等に活用している。

農業振興公社の設立による地域農業振興活動の推進として、農地保有合理化事業により担い手への農地利用集積など、農地流動化を円滑に進めるとともに、担い手育成対策をはじめ、生産・流通・販売などの総合的な対策を推進していることにより、地域農業の振興に貢献している。

このように、地域に要請に対応した農地・農業用水等を地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織を目指し、組合員はもとより地域住民や学校、行政、JAなど多様かつ有機的な連携のもとで、外部にも開かれた継続的、持続的な運動が展開されている。

(3) 21創造運動の主な取組み

①都市と農村の交流

◇地域イベントへの参加

町などが主催する地域のイベントに積極的に参加し、パネルで農業用水の多面的機能、農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介するほか、パンフレット、ティッシュなどを配布し、水土里ネットの役割などをPRしている。



栗山町や水土里ネット、JA、商工会などで構成する実行委員会が主催した「くりやま夏祭り」。水土里ネットコーナーでは、パネル展やパンフレット、水土里ネットPRグッズを配布した。(平成18年7月21日、22日に2



平成18年9月16日、17日にJR札幌駅南口広場で開催された、道開発局、水土里ネット北海道等の主催のイベントに参画。農地・農業用水等の役割を紹介したほか、地域の農産物のPR、直売を行った。

②関係団体・地域住民等との連携

◇歴史的施設の伝承・保存

大正14年に建造された『南学田揚水機場』の歴史的価値を評価し、町教育委員会と自治会が連携しながら伝承・保存活動に取り組んでいる。



揚水機場周辺の草刈りや建物の補修等も自治会の協力を得て行っている

◇用水路沿いの花壇の造成・管理

南学田地区の市街地隣接地の水路を埋設した用地を利用して、地元自治会の協力を得て花壇を造成。ルピナスなどを植栽し、景観美化に努めている。花壇の管理は自治会が行っている。



◇生態系保全への取り組み

「ウォーターリフォーム会」と農業試験場などと連携して、ヨシを使った排水路の水質浄化試験を継続的に行い、ビオトープ空間の保全、多面的活用、子供たちと連携した動植物の生息調査などを行っている。

※ウォーターリフォーム会=農業試験場と水土里ネット等が連携して取り組んだ水質浄化試験や、子供たちの「田んぼの学校」を契機として、町内の有志が立ち上げた会。水質浄化試験施設周辺のビオトープ空間の保全や多面的活用などに取り組んでいる。



◇農業振興公社の設立による地域農業振興活動の推進

地域農業の要請に対応し、農業関係機関・団体が一体となった地域農業振興策に取り組むため、栗山町と水土里ネット、JA、農業委員会が参画して、栗山町農業振興公社を設立。農地保有合理化事業により担い手への農地利用集積など農地流動化の円滑化を積極的に進めるとともに、担い手育成対策をはじめ、生産、流通、販売などの総合的な対策を推進している。

◇農業用水の多面的機能発揮に向けた取組（消防署との連携）

農業用水の防火用水機能増進を図るため、地区内の用排水路や畠地かんがい給水栓等の位置図を消防署に提供し、対処できる箇所の増加に向けて協議を進めているほか、防火訓練等にも活用している。

③学校教育との連携

◇小学校の総合学習「田んぼの学校」に協力

栗山町立継立小学校4年～6年生の総合学習「田んぼの学校」に協力。田植えや稻刈り体験、生育観察などを通して、農地や農業用水等の重要性と、これらの地域資源を管理している水土里ネットの役割等を紹介している。



平成18年6月7日
日に田植え体験、10月5日に
稲刈り体験、11月22日に収穫祭を実施。

◇小学校の社会科見学に協力

継立小学校4年生11名（6月30日）
の社会科見学に協力し、子供たちを大夕張
ダムや川端ダムなどに案内し、施設や農業
用水、水土里ネットの役割等を紹介した。



④先駆的な農業振興活動

◇農業振興公社の設立による地域農業振興活動の推進 ※再掲

◇生態系保全への取り組み ※再掲

⑤環境・景観保全活動

◇用水路沿いの花壇の造成・管理 ※再掲

◇生態系保全への取り組み ※再掲

⑥多様な広報等

◇農業用水、水土里ネット等のPRパンフの作成・配布

⑦運動の成果等

- ・町内会やその他の団体と有機的な連携が構築されている。
- ・水土里ネット・施設・多面的機能の役割や重要性が理解されている。
- ・運動を通じて地域農業に貢献している。
- ・農地・水・環境保全向上対策に貢献している。



3. 水土里ネット新十津川（新十津川土地改良区）

（1）水土里ネットの概要

- ②地区面積 4,175ha
③組合員数 449戸
④関係市町村 新十津川町
①役職員等数 総代37名、役員9名、職員13名

（2）21創造運動の概要と受賞ポイント

ふるさとまつりやゆきまつりなど町が主催するイベント等に積極的に参画し、地域農業や水土里ネットの積極的にPRに努めているほか、地域住民や組合員の協力を得てハーブの植栽を行っている。

国営農業用水再編対策事業の実施を契機に地域住民とワークショップを開催し、地域活性化手法について意見交換を行っている。その結果、地域振興の意識が高揚している。

多面的機能の発揮に向けた消防署との連携や学校教育との連携としてたんぼ探検隊ファームに協力している。また、農業水利施設見学会を実施し、施設や農業用水、水土里ネットの役割等を紹介している。このことにより多様な団体との連携が可能となった。

景観保全活動として、吉沢の里親水景観施設の整備に取り組み、ホタルの育成による生態系の保全に努めている。また地方新聞に水土里ネットの活動取り組みが紹介され、水土里ネットの役割など理解度がアップしている。

このように、農地・水・環境保全向上対策での活動や、地域が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織を目指し、組合員はもとより地域住民や学校、NPO、行政など多様かつ有機的な連携のもとで、外部にも開かれた継続的、持続的な運動が展開されている。

（3）21創造運動の主な取組

①都市と農村の交流

◇地域イベントへの参加

町等が主催する地域のイベントに積極的に参加し、パネルで農業用水の多面的機能、農地・用水施設等の資源保全の重要性などを紹介するほか、パンフレットなどを配布し、水土里ネットの役割などをPRしている。又、NPO法人が実施するたんぼの学校・自然及び川の生態系観察等を支援することにより、大半が札幌市からの参加であり、有意義な交流が図られている。



新十津川夏のイベントふるさとまつりで水土里ネットブースを設置し、パネル展等を実施（左）。同じく新十津川冬のイベントゆきまつりで水土里ネットブースを設置し、パネル展等を実施（右）。

②関係機関・地域住民等との連携

◇用水路沿い等のハーブ等の植栽

地域住民や組合員等の協力を得て用水路沿いにハーブ（ホフク系リシマキヤ）を植栽し、防虫効果による減農薬に寄与している。



下徳富第14支線1,750mに6,000本。中徳富幹線630mに2,100本を植栽

◇ワークショップを開催し、地域活性化等について意見交換

国営農業用水再編対策事業の実施を契機に札幌開発津建設部と連携して、地域住民とワークショップを開催している。



◇農業用水の多面的機能発揮に向けた取組（消防署との連携）

農業用水の防火用水機能増進を図るため、地区内の用排水路等の位置図を消防署に提供し、対処できる箇所の増加に向けて協議を進めている。



③学校教育との連携

◇小学校の総合学習(たんぽ体験隊ファーム)に協力

田植え、稻刈り、はさがけ、脱穀、精米の農作業や水の管理あるいは、生き物調査の体験に全面的に支援・協力し、最後はともに餅つきを楽しみ収穫の喜びも体験している。





田植え(上左) 稲刈り(上中)
はさがけ(上右) 脱穀(下左)
もちつき(下右)
地域老人クラブの指導をいただき昔ながらの農法を体験

◇農業水利施設見学会の実施

町内小学校の子どもたちに、たんぼの水はどこから流れてくるのかを知ってもらおうと、社会科見学で基幹施設の新十津川ダム・徳富川頭首工・幹線用水路などを案内。施設や農業用水、水土里ネットの役割等を紹介している。



新十津川ダム見学(左・中) 徳富川頭首工見学(右)

④先駆的な農業振興活動

◇直売フェスタへの参加

北海道開発局が札幌駅前広場で展開する、農産物直売フェスタに積極的に参加し、地元産のコメを始め特産物の販売を支援している。



新十津川産新米・地酒等特産品販売(左) アンケート調査のお礼に新米をプレゼント(中・右)

⑤環境・景観保全活動

◇用水路沿い等のハーブ等の植栽

地域住民や組合員等の協力を得て用水路沿いにハーブ、サクラの植栽を実施しているほか、花壇を造り景観保全に取り組んでいる。



地域保育園児による桜植樹(左) 同じく地域小学生(中) 用水路敷地に植栽した花壇(右)

◇親水景観施設整備

吉沢の里親水景観施設の整備に取り組み、蛍の育成等生態系の保全に努めている。



親水公園にて小学校自然観察会(左) ホタルの幼虫放流(右)

◇農地・水・環境保全向上対策での活動

用排水路の浚渫・農道更には畦畔の草刈りや、空き缶拾い等々地域住民参加による環境の整備と景観の保全に配慮している。

⑥多様な広報等

◇地方新聞(プレス空知)に水土里ネットの活動を随時報道

水土里ネットが全面的に支援する小学校の総合学習の取り組みなどを随時紹介されている。

◇農業用水、水土里ネット等のPRパンフの作成・配布



水土里ネット紹介パンフを作成し、イベント等で配布している

プレス空知にて田んぼ体験隊ファームの活動掲載



⑦運動の成果等

- ・当初、基幹産業を農業とする本町にとって土地改良区の存在は高い率で周知されていると考えていたが、アンケート調査で周知されていない予想外な結果となり、その後PR不足を踏まえ各種イベントへの参加や施設見学会、サクラの植樹等を積極的に行った。その結果、地域住民の水土里ネットの役割など理解度が格段に上がった。
- ・地域住民とのワークショップ開催により地域振興の意志が高揚した。
- ・たんぽ体験隊ファームの実施により、教育委員会やPTA、小学校スーパー・アドバイザー、地域老人クラブ、ライオンズクラブ、その他の団体と有機的な連携が構築されている。また、各種イベントへの参加により観光協会・商工会・地域団体等との連携が強まった。
- ・農地・水・環境保全向上対策では新規制度の取り組みということもあり、活動組織への住民参加を促し、組織構成の確立と事務的業務を全面的に支援し、事業展開が円滑である。

4. 水土里ネット富良野（富良野土地改良区）

(1) 水土里ネットの概要

- ②地区面積 9, 198ha
③組合員数 1, 156戸
④関係市町村 富良野市、中富良野町、上富良野町
①役職員等数 総代45名、役員16名、職員18名

(2) 21創造運動の概要と受賞ポイント

富良野へそまつりや各町の農業まつりなど地域イベント等に積極的に参画し、地域農業や水土里ネットの積極的にPRに努めているほか、関係団体・地域住民との連携として、親水施設せせらぎ水路整備で小中学生が描いた丸太を埋め込み遊歩道を整備している。また、地元団体と連携し芝桜の植栽や布部川頭首工周辺に「エゾヤマザクラ」を植樹し、環境・景観整備に努めている。

農業・農村の多面的機能や農地・農業用水の維持保全の重要性などの理解促進を図るために学校教育と連携しており、小学校との連携で「田んぼの生き物調査」や施設見学会の「なかふらのなんでも探検隊」に協力し、特に「なかふらのなんでも探検隊」では教育委員会と連携し町内小学校3, 4年生を募集し、「水の路を旅しよう！」と題し、農業施設の重要性と水土里ネットの役割への理解に努めた。

このように、農業・農村の多面的機能や地域資源の保全の重要性について地域住民等の理解の醸成に向け、組合員はもとより地域住民、学校、行政など多様かつ有機的な連携のもとで、外部にも開かれた継続的、持続的な運動が展開されている。

(3) 21創造運動の主な取組

①都市と農村の交流

◇地域イベントへの参加

市や町の実行委員会、JA、水土里ネットなどが共催で「ふらのへそ祭り、中富良野・上富良野・旭川農業祭り」等様々なイベントに参加し、水土里ネットの役割や施設をPR。パネルの掲示とクイズにより正解者には抽選で商品（地元農産品等）を贈呈。好評を博している。



★ふらのへそ祭り★

クイズ参加者125名
3土地改良区(大雪、東和、富良野)で共催
* 子供向けアトラクション
ヨーヨ釣り、ペンシルバルーン、あめすくい

★中富良野農業祭り★

クイズ参加者175名
* 子供向けアトラクション
ペンシルバルーン、あめすくい

★旭川農業祭り★

4土地改良区(大雪、東和、旭川、富良野)で共催
* 子供向けアトラクション
ヨーヨ釣り、ペンシルバルーン、あめすくい

◇地域イベントへの参加

札幌駅前で開催された、開発局、JA、水土里ネットなどが共催でイベント「農産物直

「売フェスタ」に参加し、パネルで農業用水の多面的機能、農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介するほか、パンフレット、ティッシュなどを配布し、地元農産物の紹介及び販売もした。来場者数は約3万人にのぼった。



テント全景



加工品販売



ふらのぶどう果樹研究会からの委託販売

②関係機関・地域住民等との連携

◇布部川頭首工 植樹について

地域住民の活動グループ主催により、地元小中学生によって布部川頭首工周辺に「エゾヤマザクラ」の植樹を行い、土地改良区も協賛し施設周辺の景観整備を図った。

同時に、管理棟の施設見学も行い、水土里ネット役割等を紹介、子供たちは職員からの説明に聞き入っていた。



◇遊歩道整備 「親水施設せせらぎ水路整備

旭川開発建設部と連携し、せせらぎ水路遊歩道に園児や小中学生が描いた丸太を埋め込み遊歩道を整備した。



◇植栽「みどり豊かな地域づくりの支援植栽活動」

旭川開発建設部と連携し、せせらぎ水路に地元小学校、連合会、老人クラブ、婦人会等約80名で芝桜の植栽をした。



植栽作業風景(左)
芝桜の植栽後、80
名で記念撮影(右)

◇JICAとの連携により開発途上国研修員の研修の受け入れ
大雪土地改良区を代表として、JICAの受け入れた開発途上国よりの海外研修員の研修を行った。

③学校教育との連携

◇小学校との連携「田んぼの生き物調査」

中富良野町立旭中小学校、旭川開発建設部と連携し、水田周辺の生態調査を行った。



◇土地改良施設見学会「なかふらのなんでも体験隊」

中富良野町教育委員会と連携を図りながら町内の小学3、4年生を募集し、土地改良施設を見学する。農業施設の役割「水の道を旅しよう!」と題し、分水施設・頭首工・ファームポンド等をまわり、昼食は自分たちで「おむすび」を作り食べていた。最後に体験レポートやアンケートもとて、水土里ネットや農業施設の役割の普及に努めた。



◇子ども絵画展の作品応募

全国水土里ネットと都道府県水土里ネットが主催する「田んぼと水」子ども絵画展の作品募集を行い、学校や子供たちとの交流促進を図っている。

④先駆的な農業・農村振興活動

◇水土里ネット・施設・多面的機能の役割や重要性が理解されてきている。

⑤環境・景観保全活動

◇頭首工周辺にエゾヤマザクラを植樹 ※再掲



◇用水路敷地の遊歩道の整備推進 ※再掲

◇用水路沿い等の芝桜植栽 ※再掲

⑥多様な広報等

◇農業用水、水土里ネット等のPRパンフの作成・配布

◇子ども絵画展の作品募集 ※再掲



⑦運動の成果等

- ・町内会やその他の団体と有機的な連携の醸成を計っている。

- ・農地・水・環境保全向上対策に貢献している。